



『インスピレーションになろう』 Be the Inspiration

RI会長 バリー・ラシン 第2590地区ガバナー 金子 大

# 川崎中原ロータリークラブ会報

KAWASAKI NAKAHARA R.C. WEEKLY/2017~2018

会長・小泉 正博 幹事・徳安 久是 会場監督・今井 敬 会報委員長・戸張 裕康

事務所・〒211-0063 川崎市中原区小杉町 3-70-4 ホーユウパレス武蔵小杉 104

TEL.044-722-7282 FAX.044-722-0066 E-mail:info@nakahara-rc.com

◆例会場 ホテル精養軒 第1木曜日 PM12:30~ 第3木曜日 AM7:30~ TEL:044-711-8855

## 第 1444 回 (本年度 第 15 回)

平成 31 年 1 月 17 日 (木)

- 点 鐘** 小泉 正博 会長
- 司 会** 小林 正樹 会場監督
- 斉 唱** 「四つのテスト」
- 会員出席報告** 江口 進 出席委員長

本日	会員数	出席	欠席	出席率
	28名	17名	11名	73.91%
前々回(12月20日)欠席11名		Makeup 2名	91.67%	

欠席者：今井会員、坂本会員、坂口会員、高木会員、都倉会員、渡久地会員

### お客様紹介 小泉 正博 会長

本日は、いらっしやいません。

### 委員会報告

#### ◇神谷 直 職業奉仕委員長

##### 職場訪問の確認

1月25日(金) TESSEI 職場訪問  
13時45分 東京駅八重洲北口改札 集合  
※集合時間厳守にてお願い致します。

#### ◇小林 正樹 研修委員長

##### ロータリーの友誌 1月号のご紹介

友誌 1月号に「職業奉仕とは何か」についての記事が掲載されています。ロータリーが大きく変革する中、ロータリーの根幹である職業について様々な切り口で書かれています。非常に勉強になりますので、是非ご一読下さい。

#### ◇表彰品

- ・米山功労者マルチプル (第6回) : 鈴木次男会員・山本 剛会員
- ・米山功労者 (第1回) : 徳安久是会員



### ニコニコ報告 江口 進 親睦委員長

#### ◇小泉 正博 会長・徳安 久是 幹事

皆さんおはようございます。ここにきてインフルエンザが流行り始めているそうです。ちょっと風邪気味かと思ったらインフルエンザを疑い早めにお医者さんにかかりましょう。非常に良い薬が開発されているようで直ぐに良くなるそうです。本日は、井元会員と中村会員の入会卓話です。楽しみにしております。

#### ◇SAA一同

井元さん、中村さん入会卓話楽しみにしておりました。HOTなお話で寒さを吹き飛ばして下さい。

#### ◇親睦委員会一同

1月14日は成人の日。いつものように仕事に向かっておりましたら、晴れ着姿の若い方をたくさん見かけました。私にもああいう時期がありました。私も初心にかえって職業に奉仕にまい進したいと思いました。

### 「みんなニコニコ」

会田 公雄 会員・内藤 松雄 会員・堤 研司 会員  
若狭 滋則 会員・市川 功一 会員・山本 剛 会員  
中村 敏史 会員・神谷 直 会員

ニコニコボックス	本日	12,000 円	累計	324,000 円
記念日ニコニコ	本日	0 円	累計	55,000 円

### 入会卓話 中村 敏史会員「私の金庫人生」

#### 【生い立ち】



私は、昭和 35 年 5 月生まれのねずみ年です。生まれは加山雄三、桑田圭佑、尾崎紀代彦、平尾昌明等が育った茅ヶ崎です。

茅ヶ崎のお祭りと言えば、7月の海の日に行われる浜降祭が有名だと思います。茅ヶ崎の西浜海岸に、市内と寒川町の各神社から大小合せて約 40 基の神輿が集まり、中には腰の深さまで海の中に入って行く神輿もあり「神奈川県は無形文化財」に指定されています。海の男として生まれた私は、当然ながら若者に人気で女の子にモテるサーフィンに夢中になれば良かったのですが、ただ、ママチャリで海へ行き、さも「サーファーなんだぞ」と思わせるように波を眺め、首を傾げながら他の場所に行き、また波を見つめて、そんな自

分に酔っていたことを思い出します。

サーファーではありませんが、泳ぎは海の男「水泳の若大将」と言われたかったのですが、小さい頃は、波が大変恐怖で海に入れませんでした。何とも茅ヶ崎に不似合いの少年でした。

しかし、小学生時の夏休みには学校中で一番の日焼けに目覚め、登校日には「ちび黒サンボ」のように真っ黒になり、それが今でも落ちていないのが黒い原因です。

その後、小学生・中学生は野球に熱中し、大学時代にはアルバイト先の方と早朝野球、社会人になると正式に地元の草野球のB級リーグに所属。そして、自分の長男・次男が少年野球に入団すると自分はコーチ、監督を務め、息子達が兄弟同じ高校野球部に入団すると父母会として、野球部の追っかけをし、援助しながら5年間楽しい時間を過ごさせて貰いました。

自分の長所としては、何事も明るく、考え方を前向きにとらえることに徹し、ポジティブな性格だと思います。若い頃、失恋した時は、必ず海岸線のサイクリングロードを走り、頭の中を空っぽにし、そしてダッシュを力が続く限り続け、自分の息が苦しくなることが何故か快感となり、それを毎週続けるとサッパリし、また次の恋を探すということが出来ました。

短所としては、短気で負けず嫌いだという人がいます。幼稚園児の時、原因は覚えていませんが、悔しくて飲んでたコップを口で割ってしまい、お袋が慌てて自分の口を開けさせてガラスの破片を取り除いたという事件がありました。

小学生の頃は、野球はピッチャーが全てであるという考えを持っており、常にピッチャーをやっていました。ある時、友達同士の野球をやっていた時、ピッチャーを自分から他の友人に交代する話があった時、自分は即座にその野球チームを脱退するという、今考えると、自分勝手な少年だったように思います。

## 【金庫での経験】

金庫生活は、既に35年を経過しました。渡り歩いた店舗は、御幸・綱島・渡田・鹿島田・小田・高津・吉田橋・住吉・仲町台・新城・高津・武蔵小杉の12店舗の異動。高津は、2回目なので、延べ11店舗となります。副支店長が吉田橋と住吉、支店長店舗が仲町台・新城・高津・武蔵小杉となります。

そもそも、自分が川崎信用金庫を選んだ理由は、浅はかな理由からでした。最初は、百貨店への就職しようかな？と思いました。なぜなら、職場が華やかだったから。しかし、休みが日曜日ではないので却下。自分には取りえがないので、セールスマンになるだろうなと思っていました。物を売るよりも、預かる金融機関の方がいいと思い、また、自分の実力から信用金庫に絞り、信用金庫ならば神奈川N○1の川信がいいかなぐらいの軽い動機でした。そんな私が、何とかここまで順調に来れたことを大変感謝すべき事だと思います。

どちらかと言うと、初支店長の年齢は49歳と遅咲き支店長だと思います。サラリーマンとしては、どこへ異動

するか？どのポジションに配属となるのか？が大きなターニングポイントとなります。

自分の場合、まず最初のターニングポイントは、鹿島田支店だったと思います。この鹿島田支店で今まで渉外係から融資係の配属になったことです。今まで渉外係でバイクにまたがり飛び回っていた仕事からデスクワーク中心になった時の落ち着きのない自分が今でも思い出されます。正直言って少しがっかりしたことを思い出します。しかし、後になってこれから続く8年余りの融資係が大きく今後の自分に影響したのです。この、融資への配属ではなく、自分に合っていると思う渉外係を続けていたら今の自分はないと思います。

振り返ると、渉外係10年 融資係8年と、このバランスが自分にとって大きな力となりました。渉外係としては、トップの成績にも係らず、その後伸び悩み、保険会社へ転職したのもいました。人として、バランスはとても大事なことで、どんな環境でも対応出来るものと確信したものでした。今では、若い職員には、渉外・融資の係を絶対にチャンスがあれば経験しなさいと話をしています。融資経験があるかないかは、「決断」という事が養われ、支店長として大きく必要な事項であるからです。

もう一つのポイントは、この35年間現場の支店で仕事が出来たことです。本部への異動がまったくなかったわけであります。中には、本部と支店を異動を繰り返す者、一旦、本部へ異動したら支店には戻れなかった者と、そこで大きく将来が見えてしまうことがあります。自分は、支店経験を多く携わってきたので、順調にここまで来ることが出来ました。本部は、平均年齢も高く、専門分野の仕事も多く、会話も殆どなくもくもくとパソコン相手に行く仕事も殆どです。自分の性格から、この環境では自分を出せず、もしかしたら、本部で埋もれていたかも知れません。

また、いい事ばかりではなく、小田支店の約40歳の頃、金庫を退職したいと真剣に思ったこともありました。それは、支店長があまりにも理不尽で、支店内の雰囲気も暗く、職員全員が怯えていたように感じられていました。支店に出勤するのが、大変苦痛でした。ですから、自分が支店長になった時は、支店の雰囲気を一番大事に考えるようになりました。その結果、本当にいい結果が表れました。お客様に対する気持ちは、まず職員が楽しく、明るい職場であること。それが、お客様に通じるものと考えています。若い職員と一緒に仕事が出来たことは、最高の喜びであり、また、支店長というお山の大将となれたことは、非常に遣り甲斐のある仕事であったと思います。

## 【これからの人生】

自分は、あと1年半で定年を向かえます。自分は、皆様と違ってサラリーマンです。皆さんは、今の仕事から新しい仕事をする事は、環境等から難しいことだと思います。また、宿命ということもあるでしょう。しかし、自分は色々な選択肢があります。

こんな話があります。以下は、国際ビジネス&スポー

ツアナリストのタック川本氏書いた、メジャー流人間力の作り方（人生にコールドゲームはない）から抜粋させて頂きました。

### ～抜粋～

アメリカのスタンフォード大学が、90歳以上の高齢者を対象に「自分の人生で最も悔やまれることは何か」という調査をしたことがある。その結果は、次の通りだった。

- 1位 もっとリスクを負って、自分が望むことをすれば良かった。
- 2位 もっと、何かに挑戦すれば良かった。
- 3位 子育てだけでは終わりたくなかった。

この調査結果は、私達の生き方に対して大切なことを示唆していると思います。たった、一度の人生、おそらく誰もが「悔いなく生きたい」と思っているに違いない。だが、実際は、「もっと自分のやりたいようにやれば良かった」「もっと様々なことにトライしたかった」と感じるのです。

確かに、挑戦にリスクはつきものだ。その為に「新しいことに挑戦するリスク」と「現状のままの安全」が天秤にかけた結果、多くの人が後者を選択することになる。

だが、「リスク」は本当に私達が思っているほど大きなものだろうか？自分で実際に経験していないばかりに、それが何かとてつもなく大変なことのよう思いこんでいないだろうか？

アメリカのジョン・F・ケネディ大統領のこんな言葉があります。

「物をなくせば小さいものを失います」信用をなくせば大きなものを失います。しかし、勇気をなくせば全てを失います。」

物質的なものは、一度失ってもすぐに取り戻すことが出来る。だが、人間の内面的部分は、一度失ってしまえば取り戻すのは非常に困難だ。特に勇気、「過去の知恵」を振りほどき、「まずはやってみよう」と新しいことにチャレンジする勇気は、失ってしまうと、そこで人として成長を止めてしまうことになる。勇気を失うと、熱意を失い、情熱を失い、やがて希望をなくしていく。どんどん負の連鎖が始まってしまう。

メジャーリーグが我々に教えてくれるのは、こうした負の連鎖に陥らない、強い人間力を持った人を育てることの大切さです。

人生には、コールド負けというもの存在しない。「敗北のメッセージ」に屈することなく、あきらめないうでトライし続けることができる自分である限りは、負けは確定していないのである。

この気持ちを持ちながら、自分も次のステップに臨みたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

## 入会卓話 井元 雄一 会員



今回の入会卓話は、スタッフが手伝ってくれたプレゼンテーション資料を使いながら自己紹介のかたちで進めさせていただきます。

私は、1978年生まれ、今年41歳になります。5人兄弟の長男として生まれ、男男女女男とバランスの取れた兄弟の中で育ちましたので、喧嘩も当然たくさんしましたし、我慢することも多かったし、逆にわがままを言わせてもらうことも多く育ってきました。

学校は、宮内小学校・宮内中学校・新城高校を卒業、大学は海外も含めて行っております。

いま現在、健康科学博士（Ph.D.）という博士号がごございます。こういう仕事をしていますと医学博士ではないのですかということをよく言われますが、医学博士ではありません。どう違うのかといひますと、医学博士とか、医学・医療のやるところは、たとえば、病気や怪我になった時に、正常が「ゼロ」という基準にした場合「ゼロ」よりも「マイナス」になったのを「ゼロ」に戻すものです。健康科学というのは、「ゼロ」をもっともっと高めていくのが仕事になります。

カイロプラクティック理学修士（M.S.）というもごございます。修士号を持っているカイロの先生は、国内ではごく少ないです。

会社は、米国法人ウェルネスブランドコーポレーションを作りました。また、姿勢専科 KCSセンターを、東京都で3院、神奈川県で6院うち中原区で4院やっております。ここはカイロプラクティックに留まらず、姿勢全体を見るような調整を行う施術をする治療院でございます。株式会社ハート&ハンドという会社では、介護関係の仕事を行っています。具体的には、訪問看護ステーション等受託支援事業所、ケアマネージャーさん達がケアプランを作る事業所をやっております。

公的な仕事としては、事業協同組合東京・神奈川の代表をさせてもらって、その全国組織である連合会の役員NPOの役員も務めております。現場の仕事以外にも、大学や専門学校などで講義を行っています。大阪では2週間に1回日帰りで講義。韓国には、集中講義に年間に何回か行きます。講義では、レントゲンや姿勢や体の事だけでなく、経営実践についても教えています。またPTAや学校などでも授業を行っています。

本業のカイロプラクティックですが、アメリカ等では医師と並ぶ第1級医療で、44か国で法制化され死亡診断書も書きます。日本では国家資格がなく玉石混交の状態、国際水準クリアは40000件中わずか600人程度です。中には、1週間勉強してカイロの先生として開業しているというのも多く、私には効かなかったとのお話もあり

ますが、水準に達していない先生だったのかと思います。

アメリカでは腰痛・肩こり・骨格の問題はカイロプラクティックが担当します。整形外科は、壊れた折れた怪我したが担当で、痛いとか関節がヘンとかは、カイロプラクティックの仕事になります。

私自身も、バイクの交通事故に遭い、その後遺症からカイロプラクティックによって回復をしたのが、勉強を始めたきっかけです。もともと我が家は、父が建築関係建設関係の仕事をしておりまして、良い大学に入り、良い会社に入るか公務員になるようにと育てられておりましたが、バイクの事故をきっかけに、自分が良くなったものについて勉強してみると非常に面白く、これを一生の仕事にしようと決めました。

カイロプラクティックというものは、痛みだけではなく予防としても効果が高く注目されて、各国活用されています。当院は東京都スポーツ推進企業に選定され、神奈川県「未病を治そう」推進企業に認定。厚生労働省スマートライフプロジェクト認定企業です。

ロータリーとの関わりですが、私自身は内藤さんにご紹介いただき、市川さんに勧めていただいて入会させて頂きました。

実は、母方の祖父 蜂谷弘道が、1994-95 年度 第 2760 地区のガバナーをしていたようです。非常に厳しい祖父で、怒られた経験しか思い出せません。ただ厳しい中にも愛情のすごくある人であったと思います。いまだに印象的な怒られ方としては、母たちを手伝おうと厨房に入った瞬間に怒られました。「男は厨房に入るな！」手伝うことが良いことだと思っていましたので、手伝いに入ったら怒られるという事を覚えました。非常にその怒られ方が子ども心に衝撃的でした。祖父は、医者でもありましたが住職もやっていました。

父方の祖父 井元啓太もロータリアンでした。天下の奇人と言われていたようで、井元産業株式会社社長で、陶磁器関係ノリタケなどと一緒に輸出をしている会社です。実家は現在、「榎木館」（井元為三郎邸）という重要文化財として観光名所になっています。昔はそこで良く遊び、茶室の獅子脅しをたき火で燃やしてしまいすごく怒られた思い出があります。今は自由に入れなくなりました。

祖父たちが厳しく育ててくれましたが、もう一人私をとて可愛がってくれたのが、叔父の薄井信明で、ロータリーに入ったことを喜んでくださいました。大蔵省（現財務省）事務次官を経て国民生活金融公庫（現日本政策金融公庫）総裁を務め、現 オリックス取締役 社外取締役 コナミホールディングス（株） 社外監査役です。

研究者として海外で論文の発表もしています。先日卓話で「ピンコロ」の話が出ましたが、星 旦二先生は、ピンコロを推進している第一人者です。いまカイロプラクティックや姿勢が人間の健康長寿にすごく役立つという

事で研究をしようという事を進めています。研究も人類の発展に役立つという事で、苦手ではありますが取り組んでいます。

このような仕事をしている関係でいろんな方と知り合うことが出来ました。カンボジアに学校を建てる活動もしています。子ども達が「地雷注意」の看板が読めずに命を落としたり怪我をするという事を知り、教育が大切だと思って始めました。

最近、一般社団法人 日本姿勢科学学会 設立に協力しています。腰痛・肩こり・骨格の問題はカイロプラクティックが有効なのは間違いないのですが、長年の臨床と研究により部分治療から脱却の必要性を感じ、姿勢科学の学問の確立と後続の指導教育に尽力しています。子どもの姿勢・スポーツの姿勢・高齢者の姿勢、併せて認知症や介護問題にも取り組んでいます。

ロータリーに入って一番わからなかったのが「奉仕」という言葉だったのですが、「サービス」という言葉を日本語にした時に「奉仕」になったと伺い、「サービス」ということはわかる気がすると思いました。いまアメリカで「サーバントリーダーシップ」という考え方があり、これに合致すると思いました。

いろいろな方とご縁があり、いま仕事をさせて頂いていますが、人の為にやっているから、いろいろな方が協力して下さいただと今回振り返って思いました。

姿勢科学の普及に力をいれていますが、腰痛、肩こりをなくするのはもちろんのこと、「日本人をもっとかっこ良く健康にする」ことを目指しています。

⇒ **職業奉仕・青少年奉仕**

プライベートでは4児の父。同じく子育て世代のお父さん、お母さんには特に良く なってもらいたい子どもたちに健康でいてほしいと願い資格や知識・技能を活かしボランティア講演活動。

⇒ **青少年奉仕・社会奉仕**

海外にも日本発の「姿勢科学」を広めることで文化交流やコミュニケーションを通じて日本の良さと海外の良さのミックス。⇒**国際奉仕**

「ロータリーで、私が何をやっていこうか」という事が、今回の入会卓話の資料を作る中で、何となく見えてきた気がします。ご清聴ありがとうございます。

## 井元雄一(カイロプラクター)

1978年生まれ

宮内小学校、宮内中学校、新城高校卒業  
健康科学博士(Ph.D.) カイロプラクティック理学修士(M.S.)  
オーストラリア公立マードック大学カイロプラクティック学科卒業  
韓国ハンソ大学 健康増進大学院 博士課程修了

米国法人ウェルネスブランドコーポレーション 代表取締役CEO  
姿勢専科KCSセンター(東京都3院 神奈川県6院)院長  
株式会社ハート&ハンド 代表取締役社長  
東京都知事認可 新東京カイロプラクティック協同組合 代表理事  
神奈川県知事認可 神奈川県カイロプラクティック協同組合 理事  
厚生労働大臣認可 日本カイロプラクティック協同組合 連合理事  
NPO法人 国際カイロプラクティック教育審査機構 理事



旧大蔵省事務次官だった叔父もロータリーに入ったことを喜んでくださいました。



大蔵省(現財務省)事務次官を経て  
国民生活金融公庫(現日本政策金融公庫) 総裁 薄井信明

現 オリックス取締役 社外取締役  
コナミホールディングス(株) 社外監査役



大阪観光大学 国際交流学部 講師  
伊丹高等文芸化学園専門学校 講師  
姿勢セラピスト専門学校 講師  
韓国ハンソ大学 大学院 講師

レントゲンや姿勢科学、生体力学など医療分野から  
経営コンサルタントの経験から経営実践学なども教える。  
その他、PTA成人委員会、学校保健委員会、小中高校授業

## 研究者の顔

シンガポールで開催「第9回腰痛・骨盤の痛みに関する学会世界会議〜診断と治療に基づくエビデンスの進展」で論文発表。

韓国で開催カイロプラクティック国際会議で日本人の慢性疾患に関する研究報告、優秀論文賞受賞。

東京都姿勢調整師会・三井生命保険株式会社主催「専門家に聞く・運動がもっと楽しくなる姿勢のお話」(ゲスト 大林素子さん)で講師を担当し、スポーツと姿勢の関係についての講演が好評を博した。

倉敷芸術科学大学にて開催世界手技療法会議では論文が最も栄誉ある「大会長賞」を受賞。医師との共同研究、星旦二先生など

⇒ 研究も人類の発展に役に立つ



## カイロプラクティックとは？

アメリカ等では医師と並ぶ第1級医療(死亡診断書も書く)  
44か国で法制化し、日本では国家資格がなく玉石混交の状態  
(国際水準クリアは40000件中わずか600人程度)  
アメリカでは腰痛・肩こり・骨格の問題はカイロプラクティック  
井元もバイク交通事故後遺症から奇跡の回復  
腰痛・肩こり・高齢化・介護対策など ⇒ 詳細は また後日

痛みだけではなく予防やプライマリヘルスケアにも各国活用  
当院はオランダに向けた東京都スポーツ推進企業に選定。  
神奈川県「未病を治そう」推進企業に認定。  
厚生労働省スマートライフプロジェクト認定企業。



## ロータリー ガバナーだった祖父

1994年度 2760地区  
はちや整形外科病院  
院長 鎌谷弘道  
(曹洞宗全久寺住職)



## 最新の活動

一般社団法人 日本姿勢科学学会 設立に協力  
腰痛・肩こり・骨格の問題はカイロプラクティックが有効なのは間違いないが、長年の臨床と研究により部分治療から脱却の必要性を感じ、姿勢科学の学問の確立と後続の指導教育に尽力。  
子どもの姿勢・スポーツの姿勢・高齢者の姿勢など。併せて認知症や介護問題にも取り組む。

奉仕はわからないがサービスはわかる気がする。  
「サーバントリーダーシップ」という考え方に合致。  
人の為にやってるから協力してもらえた!

## 父方の祖父もロータリアン

・名古屋のロータリアンで天下の奇人と言われていた祖父  
井元産業株式会社社長 井元啓太

・実家は現在、榎木館(井元為三郎邸)という重要文化財として観光名所になっている。



## 姿勢科学の普及と今後について

腰痛、肩こりをなくすのはもちろんのこと、「日本人をもっとかっこ良く健康にする」ことを目指しています。 ⇒ 職業奉仕・青少年奉仕

プライベートでは4児の父、同じく子育て世代のお父さん、お母さんには特に良くなってもらいたい子どもたちに健康でいてほしいと願い資格や知識・技能を活かしボランティア講演活動。  
⇒ 青少年奉仕・社会奉仕

海外にも日本発の「姿勢科学」を広めることで文化交流やコミュニケーションを通じて日本の良さや海外の良さをミックス。 ⇒ 国際奉仕

